

平成 22 年度 事業報告

(特活)イランの障害者を支援するミントの会

1、イランの障害者に福祉機器を届ける事業

日本国内の障害当事者・障害者団体・リサイクル事業所・車いす業者・養護学校・リハビリ病院などから頂いた、電動介護ベッド6台・電動車いす9台・手動車いす45台をはじめ、手動リフト・エアーマットレス・ロホマットなどを、5回に分けてイランに届けた。その中には、日本財団の支援で作成した新品の手動の車いす10台を含む。

イランでは電動の福祉機器があまり見られず、メンテナンスと使い方を、ミントの会で指導しながら、利用していただいている。利用者の中には30年以上同じ車いすを利用している人や、車いすがないために、抱きかかえられて通学している子供たちもいる。また、介護する人たちも、福祉機器がないために介護の手間が多くかかっている。福祉機器は、イランNGOテヘラン脊損協会を通して必要としている登録者に配布するシステムをとり、配布する際にはミントの会の担当者が立ち会い、登録カードを作成して、身体状況や介護状況を把握している。

2、イランの障害者に介護やリハビリの技術を伝え、専門家の交流を図る事業

平成22年5月と平成22年12月にピアカウンセラーと医療関係者たちが、一部JICA横浜の支援でイランを訪問し、イランの障害者の自宅訪問と来所相談を行い、介護やリハビリの相談を行った。その際、日本財団や大阪府・細谷幸子氏の協力・支援で作成した脊損ケア手帳と神奈川リハビリテーション病院・NGOテヘラン脊損協会の協力で作成したりハビリDVDを配布した。ミントの会は、相談者の登録カードを作成し、継続して支援を続けている。さらに、NGOテヘラン脊損協会において、研修会を行い日本の介護やリハビリの技術を伝える活動を行った。

平成22年9月～10月にかけて2週間、テヘラン脊損協会の役員でイラン福祉省に勤務し、自らも車いすの生活を送っているゴメシ氏を招へいし、日本でミントの会員との交流やリハビリ病院の研修(2日間)グローバルフェスタ参加・自立支援センターやバリアフリー施設の視察を行った。

脊損ケア手帳とリハビリDVDは、NGOテヘラン脊損協会を通してイラン国内の8州に配布し利用されている。

イランの障害者の中には、車いすの操作や、移動の介助の仕方がわからず困っている人や、排泄困難や床ずれがあるために体調を壊す人がいる。ミントの会は、一人一人の抱えている問題に対して、解決の方法の相談に答えている。

また、イランの障害者のバリアフリーを勧めるために、バリアフリーのNGOに情報提供し、交流を進めている。

イランと日本の人物交流を行うことで、実際にお互いの障害者の生活や障害者の支援の様子を知ることが少しずつできてきている。

3、日本とイランの交流を図る事業

ミントの会はホームページやブログ・パンフレットの配布を通して、イランの紹介や障害者の様子・ミントの会の活動の広報に努めている。また、平成 22 年 5 月からNHKテヘランの取材を受け、9 月 29 日のおはよう日本で活動紹介された。

10 月には、グローバルフェスタ I N 日比谷・平成 23 年 2 月に秦野市民活動サポートセンターとイオン秦野店の共催イベントに参加し、ミントの会を広報した。

これらの活動を通して、日本の人々にミントの会の活動とイランの障害者の現状を知らせることができた。

その他

今年度は、活動経費として日本財団や J I C A 横浜の支援を受けることができ、また、皆様の貴重な会費と寄付により活動の幅を広げることができました。

しかし、今年度の支出の中で、福祉機器を集めるときや、人の移動にかかったガソリン代などの多くは計上できませんでした。今後は、NPOとして、健全な事業運営を進めるために、必要な支出ができようにしていきたいと思えます。皆様のご理解をお願いいたします。